

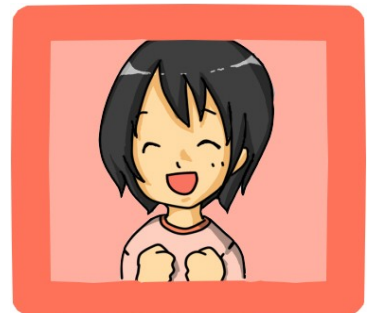
できることには限りがある

いろいろなことにお金がかかるのはわかったけど、やっぱりわたしの小学校を一番にきれいにしてほしいなー。



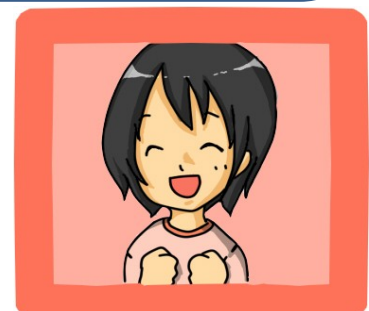
みんなそう思ってるかもしれないね。でも、そんなわけにはいかないんだよ。使えるお金には限りがあるからね。すずねちゃんには兄弟はいる？

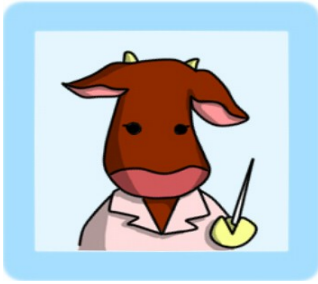
うん。お兄ちゃんがいるよ。今中学校に通っているの。



お兄ちゃんとすずねちゃん、2人に使えるお金が1ヶ月に1万円あるとしようか。その中で洋服や学校で必要なもの、全部そろえなきゃいけないとしたら、どう思う？

ええ、1万円とか大きすぎてよくわからないな。でもそれだけあるならかわいいお洋服がほしい！

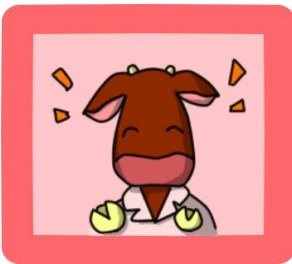




他のことを全然考えなくてもいいなら、そんな風に好きなことにお金を使えるよね。でも文房具をそろえたり、授業に必要なものを買ったりするほうが大切だと思わない？

あと...、たとえばお兄ちゃんの身長が急にのびて服が入らなくなったり、とても古くてやぶれそうだったり、転んでやぶってしまったら、自分の服の方が先にほしいとは思わないよね。

そんなこと絶対思わないよ！お兄ちゃんのお洋服を早く買ってあげなくちゃ。



そうだよね。そんな風にどんなことが大切だったり、急いでしなくちゃいけないことを考えてお金を使っていくのは、家庭でも市でも変わらないんだ。

みんなが自分勝手にやってほしいことを言ったら、やらなくちゃいけないことができなくなるかもしれないもんね。ぼくたちの学校は問題なく使えるから、他のことを先にしなくちゃいけないね。



借金はよく考えて

松阪市が借りる借金は、悪いものじゃないんでしょ？じゃあ、もっと借りちゃえばいいじゃない。



いやいや、きちんと理由がある借金ってだけで、借りたものは返さなきゃいけないんだ。たくさん借りたら返すのもそれだけ大変だよ？

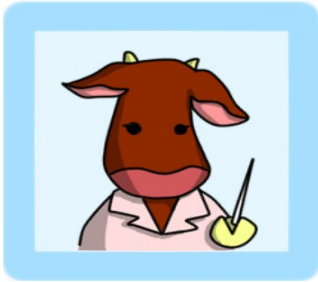
でも決められたお金の中でしかいろんなことができないって、すごくキュークツだよ。



うーん。でも返すお金が多いのもきゅうくつだと思うな。
しょうたろう君はおこづかい1ヶ月にどれくらいもらってる？

最近1000円にしてもらったよ。でも、1000円じゃ好きなことなんかできないよ。

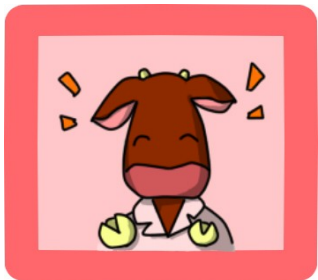




じゃあ、しょうたろう君が2000円の図鑑を買うときに、自分で500円出して、1500円はお母さんに借りたとしよう。それで、次の月から100円ずつお母さんに返す予定なんだ。

毎月1000円の中から100円ずつ返さなきゃいけないから、次の月から使えるお金は900円になっちゃうよね。

うーん月に100円ずつなら返せると思うな。どうしても困ったら貯金箱に少しはためてるし。



でも、次の月もその次の月も借りて、毎月300円返すことになったら？他のことに使えるお金がすごく減っちゃうよね。

松阪市の借金の返済は今のところ支出全体の1割くらいで収まっているけど、どんどん借金をしたら2割、3割になっちゃうかもしれない。ちゃんと返せるように、ほかのことができるように考えて借りないといけないんだよ。

公平に負担するためにする借金なのに、借りすぎちゃうと私たちが大人になったときの方がしんどくなっちゃうってことだよな。それはいやだなあ。



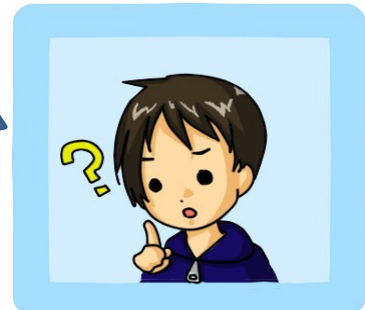
市のお金の使い方が決まるまで

すごくたくさんのお金を使っていて、でも、いくらでもお金が使えるわけじゃないって大変だね。どうやってお金の使い方を決めているの？



どういことをしなくちゃいけなくって、どんなことをするべきかは、それぞれの仕事をしている人が一番知ってるよね。だから、まずは【課】っていう職場の集まりで意見をまとめて、提出するんだよ。

でも、みんなが好き勝手これがしたいって言ったら、お金が足りなくなっちゃうよね。そんなことにはならないの？



その通りだね。だから、提出されたものがすべきことなのか、今しなくちゃいけないことなのかを確かめる作業をして、松阪市としての意見をまとめるんだ。それを市長が確かめたり、議会で話し合ったりもするんだよ。

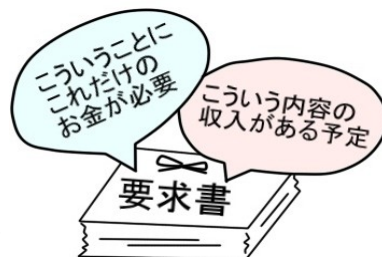
1年間のお金の使い方が決まるまでは次のページで見てみよう。

それぞれの仕事をしている課から希望・必要を伝える(要求)

市役所では、これまでお話したとおりいろいろな仕事をしています。また、その仕事にはたくさんのお金がかかります。

みんながバラバラに考えていると、市全体としてどれだけのことをしようとしているのか、どれくらいのお金がかかるのかわかりません。

そこで、お金の使い方を決めるときには収入の見込みやどのような仕事をどれくらいのお金をかけてしたいか、しなければならぬかを書いたものを全ての課が提出します。



確かめる(ヒアリング)



提出された希望などを見て、お金の使い方を調整している人たちがその内容を確認します。税金を払っている市民に対してきちんと説明できる内容か、今しなければならないことなのか質問します。内容によっては希望よりお金を削ったり、重要だと思われることについてはもっとお金をかけるようにしよう、と決まることもあります。

その中でも大切な仕事や、まったく新しい仕事をしようとするときには市長もいっしょに内容を確認します。

まとめる(予算書にする、査定)

内容を確認する作業が終わったら、それを1冊の【予算書(よさんしょ)】にまとめる作業をします。どのような収入がある予定で、どんな仕事をする予定かが書かれているもので、この予算書にのっていないお金の使い方は、基本的にはできません。(のっていないことについて使ってよいか、許可を別にとる必要があります。)

予算書にまとめたものを市長が見て、これで良いと認めれば次は最後のステップです。



議会で決定する(可決をえる)



予算書を市長が市議会に提出し、話し合われます。お金の使い方は市役所の人や市長がまとめただけではだめで、基本的には使う前に議会で認められる必要があります。市民から選ばれた議員が認め、可決をえることで、はじめてお金を使って仕事をしていくことができます。

4月1日からお金を使う必要があるため、ここまでを前の年度中、12月頃から3月までに行っています。